

労働組合と企業の立地 寡占一般均衡モデル

佐野 穂先*

Abstract

労働組合化されたセクターとされていないセクターが互いに影響を与える寡占の一般均衡モデルを用いて企業の立地行動を分析する。1つ目の分析として、全てのセクターが組合化された国と、組合化されていない国との2国を考える。結果として、国内に企業誘致をするためには、失業者に対する手当を削減する必要があることが示された。失業手当がある水準より低い場合には、組合のある国の方が多くの企業を誘致することができる。2つ目の分析として、一部のセクターが組合化された国と、全てのセクターが組合化されていない国との貿易を考える。貿易開始の経済厚生への影響は、組合化された国では厚生が増加する一方で、組合のない国では減少する。

JEL classification F15, F16, L13

* Graduate School of Economics, Osaka University,
1-7 Machikaneyama, Toyonaka, Osaka 560-0043, Japan
E-mail: qge007sh@student.econ.osaka-u.ac.jp